

色染 38 年卒（みつば会）東京地区の駄弁り会 ——小畠克画伯の南画鑑賞会——

同級生の小畠克君（以下画伯と呼ぶ）から第 53 回日本南画院展への展示が国立新美術館で開催される、という連絡があり、3月24日に東京近郊在住の同級生が集まった。集まったメンバーはきっかけを作ってくれた画伯、場所アレンジ役の酒井君、遠路群馬から参加の渡邊君、都内近郊の三河君、鎌田君、中里君、石野君、早貸君の8名である。

南画*の鑑賞会はまず画伯の案内で絵の鑑賞をする。展示会場は国立新美術館の3階で凡そ185点の南画が展示されている。

* 南画(南宋画)とは、唐の王維に始まるとされ、我が国には江戸時代にもたらされた東洋美術の精粹水墨画・墨彩画である。

画伯の絵は下図の如き大きなF120号(1.94m × 1.3m)の墨絵である。東京会場へ出展出来るにはそれ相応の技量が必要で、画伯は過去何度も出展されており、時々賞も受賞されている。今回の作品は題名が『耀(よう)』で、琵琶湖の波に反射された光の輝きを墨の濃淡で使い分けて繊細に表現されている。今回出展の作品は残念ながら賞には至らなかったが、去年は受賞されていた。他の受賞された作品と比較しても甲乙付け難いくらいの迫力がある。沢山の優秀な作品を審査する方も大変難しいであろうと推察される。



第53回 公益社団法人日本南画院展

後列左から 酒井 紘 鎌田興太 渡邊勝彦 三河明義
前列左から 中里寿弘 小畠 克 石野博吉 早貸正幸

鑑賞が終わり、国立新美術館庭園の満開の桜の前で記念写真を撮った。



後列左から鎌田興太 石野博吉 小嶋 堯 中里寿弘
前列左から渡邊勝彦 早貸正幸 酒井 紘 三河明義

新宿の三井ビル 5 4 階から
東京の夜景を眺めて懇談会

絵画鑑賞の後、場所を新宿の三井ビルへ移動し、ビルのF 5 4 から夜の都内の町並みを見下ろし歓談する。話題はまずは作品のうんちくから始まり、健康の話、最近手術した早貸君の手術時の痛みや酒井君のふらつき現象、亡くなった方の人数かぞえ(既に6人が亡くなっている)、近く催される京都での同窓会の出席予定者、その近況・噂、同窓会予定会場の京都清水・五条坂の怪談噺など、学生時代の性格・話しぶりは変わらない。学生運動の話、家族、菜園、景気、株、競馬などにも及び話題が尽きない。次回京都での卒業50周年の記念同窓会での再会と、時々東京での会合を約し散会した。

(色染・昭38 早貸正幸)